

問合せ事例と実行委員会・事務局からのお願い

2008年12月反省会資料 ルーキーリーグ実行委員会・事務局



特に審判に関する件を中心にお問い合わせをいただいています

- ✓ 審判の質、誤審について
 - 「XXと試合をしたが審判の質が低い、偏っている」
- ✓ 審判のスタンスについて
 - 「相手チーム所属コーチが球審をしたが、自チーム捕手にタイムをとる様促すなど、ベンチワークをしていた」
- ✓ 審判員の資格について
 - 「審判研修講習者でないといけないと言われたが」
- ✓ 試合会場について
 - 「グラウンドを確保しそこでの実施を提案したが断られ、代案も出てこない」



回答の前に...



大反対からのスタート

しかし、今でこそ誰もがその意義を認めるルーキーリーグも、立ち上げにあたっては大きなハードルがあった。『本当は船橋市の大会としてスタートさせたかったんですけど、理容業の猛反対にあつて実現しなかつたんですよ』と荒井会長は振り返る。実は90年当時、千葉県の少年野球人口は減少の一途を辿り、加盟者は激減の憂を感して、そんな中、起死回生の策として荒井会長が思いついたのが、低学年生による大会だったのだ。『幼い子供でも試合に出られると聞けばやる気が出るし、入部希望も増えるに違いない』。そう思った荒井会長は、船橋市野球少年学童部の常任理事会で3年生以下の大会の新設を提案した。しかし、場内はシーンと静まり返る。やがって、審判部の理事たちがいつせいに反対の口火を切った。

「荒井さん！三振とフォアボールとエラーと暴投の審判なんてやつてられない！」

「たいいち3年生で試合ができるわけがないじゃないか」

きつい口調で言いづる重々に「そんな次元の低いことを言っているよ、今

【連載】**さびか ルーキー!**

1999年(平成11年)春、千葉県船橋市に、全国でも珍しい小学校低学年以下の選手を対象とした大会、ルーキーリーグが誕生した。幼い選手たちがふるふる手を振り、新人部員獲得にも貢献することの機会を得た。15年の歴史の中で、少年野球の発展に大きく貢献している。

第4回 こうして「ルーキーリーグ」は始まった

【連載】**さびか ルーキー!**

子供たちをみんなサッカーにもつていけるよ。できないと言っ前にルールを覚えていけばいいやない。低学年でもできるように試合を演出するのが審判部じゃないのかい」と荒井会長がみつくと、会議は一触即発の状況になった。たまたま、理事長が仲直りに、多量決へ、結果賛成。反対の大会で低学年大会は否決されたのである。

しかし、荒井会長は直志での大会を開こうと計画し、監理歴11年、後には低学年生も試合ができるという確信があったからだ。そこで、2人を頼って市川市のチームに声をかけ、屈辱の常任理事会から3カ月後には、船橋市と市川市のチーム合同で第1回ルーキーリーグを開催。実際に大会が始まってみれば、投げ打って走るだけとはいえず、子供たちは気合の入った試合を展開し、低学年生でも立派に試合ができることを証明した。大会に出られると聞いて新入部員も増えた。

今、ルーキーリーグで「一生懸命プレーする子供たちを見て、荒井会長は、未熟な試合の審判なんてやつてられるか」という大人の論議で、子供たちのやる気を持ってはならないかと、改めて10月10日、今年の優勝チームが決まる。



記事によると



約20年前のルーキーリーグ誕生の背景

- 少年野球人口が減少(サッカーと競合)
- 3年生以下を対象とした大会を開くことで入部者が増えるのではないか
- 船橋市・学童部に提案したが、審判部から難色がでて却下
- 船橋市・市川市の有志チームで第一回大会を自主的に開催



各事例についての実行委員会・事務局見解



- ルーキーリーグ/トーナメントをステップアップのきっかけにしていきたい
 - 各チームで審判ができるスタッフの育成を検討いただきたく、またルーキーリーグ参加をそのきっかけにしていきたい
 - 各市の単位で事情は異なるが、協会審判部で審判講習などが開催されている
 - 審判のスタンスについては、今回の事例を機会に、各チーム内でご確認願いたい
- 寛大さ、協力、信頼をベースに大会へのご参加をお願いします
 - 発足経緯の通り、3年生以下の選手諸君への競技参加の機会が最大目的
 - 参加資格を厳しくすることで、選手達の競技機会を減らしたくは無い
 - 行政などのバックアップも無い、限られたリソースの中での運営
 - 子供もルーキー、大人もルーキー、「審判もルーキーかも知れない」
 - 多くのチームが低学年の試合にグラウンドを割り当てられない
 - 半数の試合は本来は自チームでグラウンドを確保する気持ちで参加いただきたい
 - グラウンドを確保できるチームへの敬意と感謝の気持ち



現在、40チームが参加

9月5日午後1時半、小雨の振りしき中、船橋市の宮本ビーバースDチームと、市川市の北方（きたかた）中央の試合が始まった。選手はいずれも3年生の子供たち。ルーキーリーグのお互いに決勝トーナメント進出をかけた大事な戦いである。

試合はすぐに動いた。1回の表、制球に苦しむ宮本ビーバースのピッチャー金本君は、フォアボールで北方中央の鷲尾君に出塁を許す。鷲尾君はそのまま盗塁、盗塁でサードへ。続く原君が右中間に痛烈なヒットを打ち、この回、北方中央は2点を先取る。しかしその裏、今度は北方中央のピッチャー鈴木君がピンチに立たされた。激しさを増した雨にたたられ、ストライクが入らないのだ。細い腕を思いっきり振って渾身（こんしん）の球を投げるのだが、無情にもフォアボールとデッドボールが続く。その機を逃さず、宮本ビーバースは金本君、鈴木君、三宅君、杉浦君が次々とヒットを打ち、この回大量9点を叩き出した。

その後、北方中央はリリーフの西尾君の好投、ファーストに代わった鈴木君の確実な守備などで追加点を許さなかったが、持ち前の機動力でチャンスを実践にもにした宮本ビーバースが、9対7で決勝トーナメント進出に王手をかけた。ルーキーリーグは全国でも珍しい、3年生以下の選手を対象とする大会である。創設は今から14年前の90年。宮本ビーバースの荒井義一会長（当時監督）が生みの親である。当初はたった9チームでスタートしたこの大会も、創設15年目を迎えた今年は、市川市、浦安市、習志野市、千葉市からもチームが集まり、その数40を数えるまでに成長。40チームを

第1回 こうして「ルーキーリーグ」は始まった



宮本ビーバースの「ルーキー」たち。全員3年生のDチームと、2年生～幼稚園児のEチームの2チームで、ルーキーリーグに参加している

がんばれ、ルーキーリーガー！

〔連載ルポ〕

1990年（平成2年）、千葉県船橋市に、全国でも珍しい小学校3年生以下の選手を対象とした大会、「ルーキーリーグ」が誕生した。幼い選手たちのやる気を引き出し、新入部員獲得にも貢献するこの大会の魅力と、15年の歴史から生まれた数々の物語を、1年にわたって紹介していきたい。

8つのグループに分け、各グループ内でリーグ戦（総当たり戦）を行い、それぞれの首位8チームで決勝トーナメント（勝ち抜き戦）を行って優勝を決める。6～10月の約5カ月をかけて戦い、優勝チームには立派な優勝旗やカップ、メダルが授与されるという本格的な大会だ。ルーキーリーグができる前は練習ばかりで飽きてしまっていた低学年生が、「この大会ができてからはやる気が出て、集中して練習できるようにになりましたね」と指導者たちは口をそろえる。

大反対からのスタート

しかし、今どこでも誰もがその意義を認めるルーキーリーグも、立ち上げにあたっては大もめにもめた。「本当は船橋市の大会としてスタートさせたかったんですけど、理事会の猛反対にあつて実現しなかつたんですよ」と荒井会長は振り返る。実は90年当時、千葉県の少年野球人口は減少の一途をたどり、関係者は危機感を募らせていた。そんな中、起死回生の策として荒井会長が思いついたのが、低学年生による大会だったのだ。

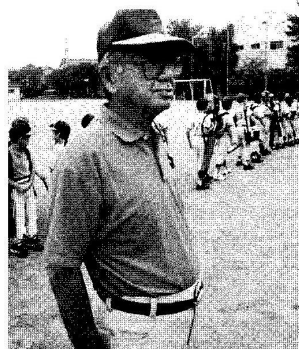
「幼い子供でも試合に出られると聞けばやる気が出るし、入部希望者も増えるに違いない」とそう思った荒井会長は、船橋市野球協会少年学童部の常任理事会で3年生以下の大会の新設を提案した。しかし、場内はシーンと静まり返る。やあつて、審判部の理事たちがいつせいに反対の口火を切った。

「荒井さん！三振とフォアボールとエラーと暴投の審判なんてやってられない！」

「だいいち3年生で試合ができるわけがないじゃないか」

きつい口調で言いつつ顔に「そんな次元の低いことを言っていると、今に

ルーキーリーグの創設者、宮本ビーバースの荒井義一会長。指導歴26年のベテランだ



子供たちをみんなサッカーにもつていけるよ。できないと言う前にルールを変えればいいじゃないか。低学年でもできるように試合を演出するのが審判部じゃないのかい！」と荒井会長がかみつく。会議は一触即発の状態となった。たまたま理事長が仲裁に入り、多数決へ。結果、賛成3、反対20の大差で低学年大会は否決されたのである。

しかし、荒井会長は有志でこの大会を開こうと計画した。監督歴11年。彼には低学年生でも試合ができるという確信があったからだ。そこでツテを頼って市川市のチームに声をかけ、屈辱の常任理事会から3カ月後には、船橋市と市川市のチーム合同で第1回ルーキーリーグを開催。実際に大会が始まってみれば、投げて打って走るだけとはいえ、子供たちは気合の入った試合を展開し、低学年生でも立派に試合ができることを証明した。大会に出られると聞いて新入部員も増えた。

今、ルーキーリーグで一生涯懸命プレーする子供たちを見て、荒井会長は、「未熟な試合の審判なんてやってられるか」という大人の論理で、子供たちのやる気を奪ってはならなかったと、改めて思う。10月10日、今年の優勝チームが決まる。